

三宮駅観光バスステーション事業に関する説明
(中央区旭通4丁目再開発関連事業)

松村つとむ

インターネット上に、私が経営する社が運営していた三宮駅観光バスステーションに関する批判が書かれている。選挙の時も、同様の怪文書が多くのマスコミ送られ、その対応に多くの時間が費やされた。多くの取材を受けながらも、一社もこの件を取り上げなかったことは、疑惑がなかったからである。本件に関しては、これまでもブログ等で説明は行ってきたが、説明責任を果たす意味で、あらためて説明する。

中央区の旭通4丁目(約700坪)は、戦後の再開発地域で全国で唯一、残った場所である。三宮駅観光バスステーションは、この遊休地の暫定的期間活用のため計画された。本地は、地権者問題の関係で長く再開発が進まず、阪神淡路大震災後も空地として、雑草があふれる荒廃した状態にあった。そうした中、近隣住民から、安全・環境の観点から市へ改善の陳情があり、本土地の活用について、市で検討されることになった。

市では、再開発事業までの暫定利用であり、また、近隣の商業施設に営業面で悪い影響を与えることはできず、そうした中、観光バス駐車場案が浮上した。しかしながら、市内の観光バス駐車場経営は赤字状態が続いており、また、本案の実施可能期間が約3年と短く、さらに、本地をバス駐車場にするには、土盤改良工事、アスファルト工事、また、電気・上下水道工事、さらに、事務所・トイレ・待合所等の設置など、多額の初期費用が必要であり、実施主体は見つからなかった。

そこで、市では、多額の初期費用がかかる。また、期間が短い。業態に制限がある。ことなどから、賃料を無償にする案を出し、引き続き、外郭団体等と交渉を行った。しかし、それでも担い手はなく、結果、民間も含めた提案募集を行うこととなった。そして、これまでイベント受注などで市の仕事をしてきた私の会社も応募を行い、競争審査の結果、選考されたものである。

インターネット上では、極端に賃料が安いと批判されているが、営業収益がバス駐車場では認められていないこと、市内の観光バス駐車場経営が赤字で、市中心部にバスがどれだけくるかわからないこと、期間が3年と短いこと、また、巨額の初期投資が必要なこと、人件費がかさむことを考えると、今では、賃料を払うどころか、補助金をもらうべきであったとさえ考えている。

また、契約では、経営状況に応じて、一年毎の賃料の検討協議が含まれていたが、やはり、来神の観光バスの駐車台数は思うようには伸びず、また、予想以上に運営人件費がかかり、第三者も交えた賃料協議も繰り返し行われたが、その経営状態から、残念ながら賃料を大きくあげることはできなく、それで両者は合意してきた。そして、平成20年7月、予定とおりに本地の再開発事業工事は着工し、本バスステーションは閉鎖となった。

さいごに、インターネット上では、私が市政を批判しながらも、市の仕事をしていることも非難されているが、私は全ての市の職員を批判するつもりは毛頭ない。市民のために体を張って、精一杯、仕事をしている方もたくさんいる。私はこういった方々を、心から尊敬している。私は、長く業者の立場で、下から市政を見て来て、こうした志ある職員にこそ、光があたるべきだと常々、考えてきた。そのためにはリーダーを変えるべきだと考え、立ち上がったのだ。仮に、私にこのような疑惑があったとしたなら、立ち上がっていただろう。